

令和3年12月定例会にあたり、自由民主党より一般質問を行います。

まず始めに、教科担任制について伺います。

令和2年度からの英語の教科化やプログラミング教育の必修化、理数系の授業の質向上などを背景に令和4年度より全国の公立小学校高学年に対して教科担任制を導入することが決まりました。

教科担任制が導入されることで多面的な指導による児童の学力や学習意欲の向上、授業の質向上、中1ギャップ対策、教員の指導力向上や働き方改革などが期待されています。

一方で、小規模校での導入や教員不足、時間割の調整などの課題が指摘されています。

令和元年12月定例会での小学校への教科担任制導入に関する質問において「教職員は、義務標準法に基づいて配置されることから現在の教職員配置数では、本市の学級数に見合った教科担任制を展開するには不十分であり、一律の教科担任制を導入するのではなく、教職員配置を充実させた上で、外国語、理科、音楽などの一部の教科で各学校の実情に応じて導入することが、子どもたちにとって最もよい方法である。」と答弁されています。

来年度から教科担任制が導入されることにより、子どもたちの教育環境がよくなることに大きな期待を寄せていますが、導入に向けた課題も多いと考えます。

来年度から導入される教科担任制に対する期待と課題をお聞かせください。

また、本市でどのように展開していくのかお聞かせください。

次に、学校再編について伺います。

少子化の進行に伴い、令和2年度に29,887人いた本市の児童生徒数は、令和7年度には28,510人、令和22年度には23,946人と減少の一途を辿っていきます。

子どもは、学校を通じて発達段階に応じた自分の思考や行動を客観的に把握し認識する力や多様性を尊重する態度、互いのよさを生かして協力する力を身につけながら成長していきます。

また小・中学校は、単に知識や技能を習得させるためだけでなく、社会的自立の基礎や国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。

このような教育環境にするためには、児童生徒が多様な考えに触れ、切磋琢磨できるよう一定規模の集団が確保されていることが求められます。

しかし、少子化が進む中で現状の教育環境を維持していくことは、難しくなっていくと予想されています。

令和2年9月定例会において、前市長は、将来の子どもたちの教育環境を見据え、「学校再編を加速させる必要があると考えている。」「コミュニティの衰退を心配されるお気持ちも十分理解できますが、ここは原点に立ち返り本来の学校のあるべき姿を考えた時に厳しい財政状況の中でも質の高い教育環境を提供するため、学校再編を決断すべき時期に来ている。」と力強く学校再編を推進する姿勢を示されました。

市長は前市政からの政策を継承し発展させ、幸せ日本一とやまを目指すと仰っています。

市長として、学校再編に対してどのような姿勢で臨むのかお聞かせください。

本市では、昨年度から市内13地区での説明会や「広報とやま」を通じ、少子化が進む中で、現状の教育環境を維持していくことが難しくなることを市民に発信していました。

また、7月から8月にかけて市内5箇所で、急激に変化する予測困難な時代を生き抜いていく子どもや、これから生まれてくる子どものために、今考えるべきこととして「子どもと学校、地域の未来を育むワークショップ」を開催しました。

ワークショップでは、市長や教育長が教育施策全体について講演を行い、2050年富山市の学校をテーマに参加者同士が話し合い、600を超える様々な意見があったと伺っています。

さらに10月には、ワークショップで市民の皆さんが描いた「2050年の富山らしい学校のイメージ」を基に、今後の教育環境について考える「子ども・学校・TOYAMAの未来創生フォーラム」を開催しました。

ワークショップやフォーラムなどを通じて地域の将来像や課題を話し合えたという観点からは意義深いものであったと考えます。

一方、そこで寄せられた意見を富山市立小・中学校再編計画にどのように活かしていくのか明確でないと不安を抱く保護者も多くいると伺っています。

ワークショップやフォーラムを開催した成果と課題をお聞かせください。

また、そこで寄せられた意見を富山市立小・中学校再編計画にどのように活かしていくのかお聞かせください。

本市では令和2年11月に富山市総合教育会議と富山市通学区域審議会の答申を踏まえ、「富山市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針」を策定し、令和3年8月に「市立小・中学校再編計画の考え方について」を決定したと伺っています。

また、学校再編計画の骨格となる再編原案については、富山市通学区域審議会に諮問し、現在審議中とも伺っています。

再編原案を拝見すると14地域生活圏別に複数案を提示されており、再編原案を作成する過程で大変な苦労があったと推察いたします。

さらにこの計画は、本市として、令和4年度以降に保護者や地域の方への説明や議論を深めるための素案だと認識しています。

しかし、保護者や地域の方には再編原案に対する新聞記事や報道を受け、非常に不安を抱いている方がおられると伺っています。

また、富山市通学区域審議会に再編原案が提示されて以降、あたかも再編原案が決まったかのように認識され、地域で賛成・反対の議論を進めようとする動きがあるとも伺っています。

再編原案は14地域生活圏別に複数案示されていますが、今後、複数案のまま再編計画に盛り込むことを想定しているのかお聞かせください。

また、本市としての再編計画を策定する過程で、保護者や地域からの意見や疑問に対してどのように応えて議論を深めていくのかお聞かせください。

本市では過去に中心市街地における小学校7校を芝園小学校と中央小学校の2校に統合しています。

当初は、総曲輪、愛宕、八人町、安野屋の4校を統合し、五番町、柳町、清水町の3校を統合、星井町、西田地方の2校を統合する素案でしたが、地域住民からの反対もあり、学校統合に向けた動きは止まっていました。

しかし、子どもたちの教育環境が悪くなることを危惧した保護者からの強い働きかけによって、学校統合に向けて再始動し、当初案とは異なる形での統合に至っています。

学校再編の議論が始まってから統合するまでに長い時間がかかり、議論が始まった平成

7年度における中心市街地の児童生徒数は2,372人でしたが、学校再編された平成20年度は1,357人と、実現するまでの間に児童生徒数は半減していました。

児童生徒数が減少の一途を辿る状況下で、これから生まれてくる子どもたちの教育環境を整えるためには、まずは保護者や未就学児の保護者の方々と話し合うなど、様々な困難を乗り越えて学校再編の議論を早く進めていただきたいと考えています。

また学校は、地域コミュニティの核となっている側面があるので、学校再編を進めるにあたって保護者はもちろんですが、地域住民の理解を得ることも大切です。

何より大事なものは「将来の子どもたちの教育環境を整えるため」であり、後になってから「なぜあの時に議論をしなかったのか」と後悔することがないことを願っています。

教育長としてリーダーシップを発揮しながら、今後どのように学校再編を進めていくのかお聞かせください。

次に、学校再編と地域との関係について伺います。

学校と地域との関係を考えると、小学校は地域との結びつきが強く自治振興会やPTAなどの協力を得ながら学校の運営を行っています。

また学校は、住民運動会や体育館の開放など地域コミュニティの場や、災害時における避難所としての役割も果たしています。

再編原案を拝見すると、校区を跨いだ組合せも提示されており、従来の校区との分断が懸念される地区もあります。

学校の配置を見直すにあたっては、道路交通網や公共交通のあり方、地域としての核をどのようにしていくのかなども考えていく必要があります。

学校再編を進めるにあたり、行政、学校、保護者、地域が対立するのではなく上下関係が存在せず対等な立場で互いを尊重し、建設的に議論を進めていく必要があると考えます。

加えて、学校再編によって生じる学校跡地の活用を含めた地域との関係も重要です。

本市では、学校跡地の活用を通じたまちづくりや防災、子育て環境といった課題に対して市全体として取組むために、令和3年度から市長部局と教育委員会にそれぞれ学校再編担当者を配置し、連携・対応することとなっています。

しかし、現状では全庁的な動きがまだ見られないように感じられ、一層の連携が必要だと考えます。

市長は学校再編と地域との関係について、どのように考えているのかお聞かせください。
また、学校再編によって生じる、まちづくりを含めた全市的な課題に対して、どのような体制で臨んでいくのかお聞かせください。

次に、本市が目指す教育ビジョンについて伺います。

昨年、新学習指導要領が全面実施されてから初めての全国学力調査が実施されました。

本市は教育委員会や教職員、保護者のお陰もあって毎年全国の中でも上位になるなど、本市における教育の質は、高いと言われてしています。

また、国において検討が進んでいる少人数学級やGIGAスクール構想、既存の小規模特認校のあり方についても本市が目指すべき教育目標との整合性や連動性が求められると考えます。

令和8年度には、水橋地区において本市では初の小中一貫教育校である義務教育学校が設置される予定です。

本市において教育に対する関心が高いので、学校再編を進めるためには保護者や地域の

理解を得ることが重要です。

このような教育を目指したいから学校再編が必要だという明確な教育ビジョンが求められると考えます。

東京都品川区教育委員会においては、知・徳・体をバランスよく兼ね備え、困難に負けず生き抜き、地域の一員として社会に貢献する子どもとするためには、①探究力が必要である②好奇心が必要である③コミュニケーション能力などが必要であるとし、そのためにはどのような教育をしていくかという教育ビジョンが明確にされています。

富山市教育振興基本計画においては、自立と公共の精神を重んじて教育の高揚を図り、新たな時代を拓く心豊かな市民を育むために①志をかかげ、知性をみがき、実践力を高める②我が国と郷土を愛し、自然に学び、芸術・文化に親しむ豊かな情操を養う③健やかでたくましい心と体を備える-という教育目標を掲げています。

本市として、今後どういった子どもを育てたいのか、そのためにはどういった教育や体制づくりを行っていく必要があるのかということ、改めて保護者や地域に対してわかりやすく説明できるよう教育ビジョンを明確に示していくことが求められます。

また、学校再編に関しても本市が目指す教育ビジョンに沿った形で進めていくべきと考えます。

本市が目指す教育ビジョンはどのようなものなのか教育長の考えをお聞かせください。

加えて今後、学校再編を進める上で、本市の教育ビジョンを保護者や地域に対してどのように明確に示していくつもりなのかをお聞かせください。

学校再編は、あくまでも将来の富山市を担う子どもたちのためであるということを忘れずに取り組んでいただきたいと思います。

以上で、質問を終わります。

(4, 577文字)